

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

長野県

学校名

中野市立日野小学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等全学年
特別の教科道徳

時数等

1年7時間
2～6年2～3時間

目標・人権教育のねらい

- ・自分や他者の生命や人権を尊重し、互いの良さに気づき、認め合う。
- ・いじめに関する資料等から、いじめられる側の苦しさに思いを寄せ、傍観者ではいけないことを確認し、いじめは許さないという強い気持ちをもつ。
- ・いじめなどの身近な差別や偏見に気づき、解決しようと自分にできることを考え取り組む。

実施した内容

- ・読み物資料を活用し、年間計画に即して学級内での身近な問題について考え合った。
- ・自分たちの身の回りに起こったいじめについて、話し合った。
- ・日頃より学年を超えた縦割り活動を行い、他者とのつながりを広く持てるようにした。
- ・大事に受け継がれてきている「なかよしかるた」（地域教材）を実施したり（低学年）、校内にかるたを掲示したりした。

工夫した点

- ・読み物資料を扱うときは視覚的に事象を捉えられるように教材を準備した。
- ・一人一人が意見を言いやすくなるように少人数グループでの話し合いを取り入れた。
- ・縦割り活動を取り入れ、学年の枠を超えての交流が深まるようにした。

他教科との
関連

- ・学級活動

事業成果

- ・知識的側面：友だちと仲良くすることの意味や、公平・公正についての理解が深まった。
- ・価値的・態度的側面：日頃の生活の中で独りでいる友だちに進んで声をかける子が見られた。
- ・技能的側面：友だちに投げかける言葉について、優しい言葉遣いに気を付けようとする児童の姿が見られた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

長野県

学校名

中野市立日野小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等全学年・特別の教
科道徳

時数等

1～4年 2～3時間
5・6年 6時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 障害者の人権を尊重し、共に生きていく意識を育てる。
- ・ 障害者との交流等を通して、障害について正しく理解し、共に支え合うために自分ができることを考え、実践しようとする心情や態度を育てる。
- ・ 障害の有無にかかわらず、誰に対しても思いやりの心を持ち、親切にする意欲や態度を養う。

実施した内容

- ・ 全校・・・講演会「多様性と助け合いの社会を知ろう」（見た目でわかる障害のある講師と見た目では分からない障害のある講師とのタッグ講演）
- ・ 5、6年・・・車椅子アスリートとして活躍する講師による講演、車椅子スポーツの体験
- ・ 1、4年・・・アイマスク体験 3・5・6年・・・ボッチャ体験 6年・・・車椅子体験

工夫した点

- ・ 講演会では、話をお聞きするだけでなく、児童が講師に質問する時間、児童がグループで感想や意見を交流する時間を確保した。
- ・ 車椅子スポーツ、ボッチャ、アイマスクなど体験活動を取り入れ、感じたことや考えたことを伝え合った。

他教科との
関連

- ・ 総合的な学習の時間に体験活動を行った。

事業成果

知識的側面：体験を通して、障害をもつ人の生活や困り感についての理解が深まった。
 価値的・態度的側面：障害をもつ方とのかかわりにおいて、自分ができることを行い支えあおうとする気持ちが高まった。
 技能的側面：障害をもつ方にも進んで話しかけたり、助けになろうと行動したりする姿が見られた。日頃の学校生活の中で、学年を越えて思いやりの行為が多く見られている。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

長野県

学校名

中野市立日野小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等4, 5, 6年
特別の教科道徳

時数等

4, 5年5時間
6年6時間目標・人権教
育のねらい

・地域教材や地域の人材を活用しながら、部落差別の歴史や現状について学び、不当な差別を許さないという強い気持ちを持てるようにする。

実施し
た内容

- ・4年：「草つき穴」の見学や草つき体験、資料等から、差別を受けた子どもたちの気持ちを考えた。
- ・5年：「草つき穴のお話」から、傍観者の立場について考えた
- ・6年：部落差別の歴史、差別に立ち向かってきた方々の姿に学び、差別を許さないという気持ちをもった。

工夫し
た点

- ・事前に中野市人権センター指導員による職員研修を行った。
- ・地域素材・地域教材である「草つき穴」について、地域の方のお話をお聞きする職員研修や中野市人権センター指導員による職員研修を行い、まず職員が同和問題について学び、授業に生かすようにした。
- ・講演会「中野市の地域教材『草つき穴』と同和教育について」を実施し、中学校区内4校の教員が同じ講演を聞き、共通理解を図った。
- ・授業では外部講師を招き、児童が部落差別について深く考える足掛かりとなるようにした。

事業成
果

知識的側面：児童の発達段階に応じて地域の部落差別の歴史と現状を学ぶことができた。また、職員も部落差別について理解を深めた。

価値的・態度的側面：差別をなくしたいという思いを強く持つことができた。6年生では市長との懇談会の場で、差別のない中野市に展望を抱く発言をする姿が見られた。

技能的側面：授業の中で、部落差別について思ったことや感じたことをみんなの前で発言したり、解放同盟の方からお話をお聞きし、疑問に思ったことや自分の経験と重ねた思いを素直に作文に表したりしていた。